

**■ 幅広い世代が参加**

**働き盛りの世代が多く参加**

**シニアも増加！**

年代	男	女
~10代	100	100
20代	300	200
30代	400	300
40代	500	400
50代	600	500
60代	700	600
60代～	800	700

年間延べ利用者 約10万人

3年間で 2.7倍に増加

**■ 人のつながりが学びとチャレンジ意欲を育てる**

家庭 → 学習センター → 職場 → 学校 → ニート等

職場 → 市民講座 → 市民講師を指す

学校 → 集合学習 → ハローワーク → ジョブカフェ

ニート等 → ネットワーク → ソーシャルラーニング

学習センター → 大学 → 起業塾

市民講座 → 市民講師 → メンター・サポート

集合学習 → 体験学習 → コーディネータ

ソーシャルラーニング → ハーモニーラーニング

大学 → 図書館、公民館

起業塾 → ハーモニーラーニング

ハローワーク → ジョブカフェ

ジョブカフェ → 商工会議所

商工会議所 → NPO等

NPO等 → ニート等

**社会参加 再チャレンジ(企業内、就業、創業、地域活動)**

**■ 地域デジタルミュージアム**

**住民による地域情報化の取り組みとして**

地域のみんなが学芸員（市民講師）

地域の自然、歴史、語り部…まるごと「学びの博物館」

ネットワークに接続されている

ネットワークをキープ実際には接続しない学習

「出かけてみよう」

「発見や感動を発信」

「学習教材を介した知識交流」

「学習教材を始めた」

デジタル・ミュージアム ラーニング

施設での学習

**■ 知の世代連鎖**

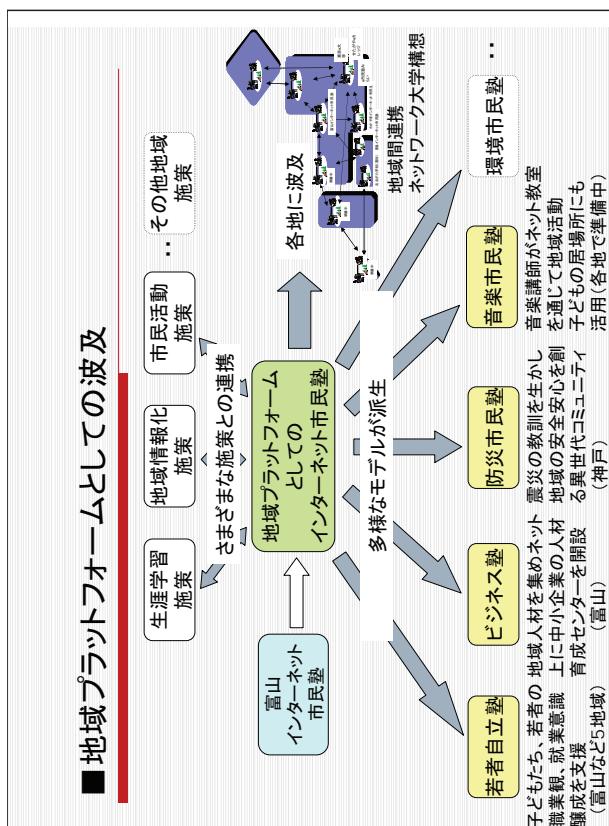
受講者から講師へ、サポートへ  
集合講座では見られない知の連鎖が生まれている

IT活用講座 (講師) Aさん (50代) (受講者) Bさん (30代) (受講者) Cさん (70代)

講座「テイバティを開こう そしてパソコン活用」 (講師) Bさん

講座「体のためになる食事」 (講師) Cさん

- 講座を受講する … IT活用はじめの一歩
- 市民講師になる … 社会参加の一歩
- 地域が見える … チャレンジの一歩



## ■ インターネット市民塾での社会参加、再チャレンジ事例

事例-1 30代女性、結婚を機に退職後自宅からネット講座を開講。教えることの充実感を持ち、講師経験を重ね研鑽。弱性、地元の小学校や学習センターで非常勤講師を務めている。自宅でも教室を開き、シニアの情報活用を支援。

事例-2 40代男性、昨年企業をやむなく退職。市民塾でのサポート活動を通じてIT活用技術を磨き、講座開催を契機に地域の人の繋がりを広げ、コレテンシ制作などを主な業務とする事業を創業。

事例-3 障害を持つ青年が、テープ起こしのスキルとともに地域の人の繋がりを得ることで、在宅での就労機会を獲得。社会参加できなかつたときの障害の程度も回復が見られ、さらに地域の繋がりが生まれている。

事例-4 20代男性、現在ニート状態にあるが、社会との接点を少しだけ持ちたいと、市民塾のサポートに応募。主役にはなりたくないが、講座のアシスタント的な活動を通して少しづつ交流。

(写真省略)